

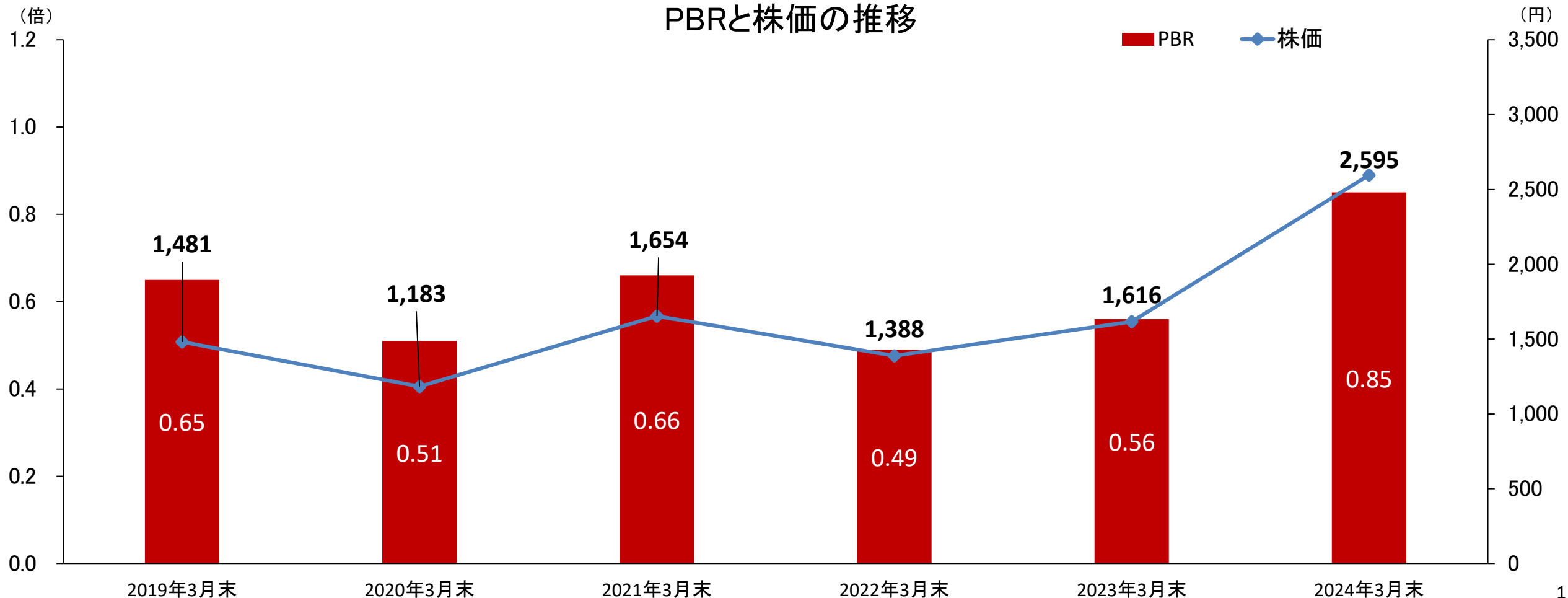
# 資本コストや株価を意識した 経営の実現に向けた対応について

2024年6月27日

極東開発工業株式会社  
東証プライム:7226

# 企業価値向上についての現状認識

企業価値の持続的な向上に継続して取り組んだ結果、PBRは0.85倍（2024年3月末時点）まで上昇を引き続き、早期のPBR 1倍達成に向け、取り組みの継続を図ることが当社の経営上の重要な課題



# 資本コストや株価を意識した 経営の実現に向けた対応（1）



## 1. 資本コスト等の算定・開示と収益性強化

- 当社の資本コストは2024年3月期時点において約7%、WACCは同約6%と認識しております。
- 資本コストとWACCを適正に把握したうえで、SR・IR活動の強化と資本政策の立案・推進、及びROE等の収益性指標の策定を行い、資本コスト等を上回る収益を継続的・安定的に確保することを目標とします。

# 資本コストや株価を意識した 経営の実現に向けた対応（2）



## 2. 有利子負債の活用

- 有利子負債を積極的に活用することで自己資本比率やWACCの低減を図ります。

## 3. 株主還元強化

- 自己資本を抑制しつつ、株主様の満足度と企業価値を向上させるため、高水準の株主還元を継続します。  
なお、株主還元は高水準な配当を基本としつつ、機動的に自己株式の取得・消却を行います。

# 資本コストや株価を意識した 経営の実現に向けた対応（3）



## 4. 主力事業の収益性、生産性の向上

- 本業の特装車事業、環境事業、パーキング等事業の収益性の強化を図り、営業利益を増大させることによってROE等の収益性指標を直接的に向上させます。

## 5. 将来の成長と利益創出に向けた積極的な研究開発・設備投資・M&A

- 中長期的な会社の発展により持続的に企業価値向上を図るため、株主還元とのバランスを考慮しつつ主力事業及び関連分野への積極的な成長投資を進めます。
- 研究開発にも積極的に投資を行い、新製品や新技術開発により将来の収益源を創出し、継続的に企業価値の向上を目指します。

## 長期経営ビジョン

### - Kyokuto Kaihatsu 2030 -

3つのステップでのステップアップ戦略

#### 1st STEP

- グループ間シナジーの強化
- 成長への積極的投資
- 社会的課題に対応する研究開発体制の強化
- サステナブル社会の実現・発展への着実な進捗

TERM : FY2022-24

#### 2nd STEP

- グループ総合力をフル活用する事業展開と拡大
- 高い生産性と高品質の両立による強い影響力の発揮
- 社会的課題への積極的対応

TERM : FY2025-27

#### 3rd STEP

- 「卓越した技術力」と「確固たる品質」の両立
- 安定的・効率的な利益創出の実現
- 事業活動・社会貢献領域の更なる拡大

TERM : FY2028-30

### 最終目標値

#### サステナビリティ・ビジョン<sup>※1</sup>

- CO<sub>2</sub>排出量削減 :  $\Delta 38\%$ <sup>※2</sup>
- リサイクル率 : 99.0%以上の維持 (埋立廃棄物ゼロ)

※1 : 詳細は後日公表予定の「環境ビジョン2030」に掲載  
※2 : 極東開発工業、日本トレクス、極東開発パーキングにおける2013年度比の原単位

#### 経・営・業・績・ビ・ジ・ョ・ン

- 連結売上高 : 2,000億円
- 連結営業利益率 : 10%以上
- R O E : 10%

#### 連結業績・目標

<2025年3月期の目標>

- 連結売上高 : 1,400億円以上 (新規M&A成長含む)
- 連結営業利益率 : 7%以上
- R O E : 6%

#### 株主還元

総還元性向 (中期経営計画 2022-24)

100%

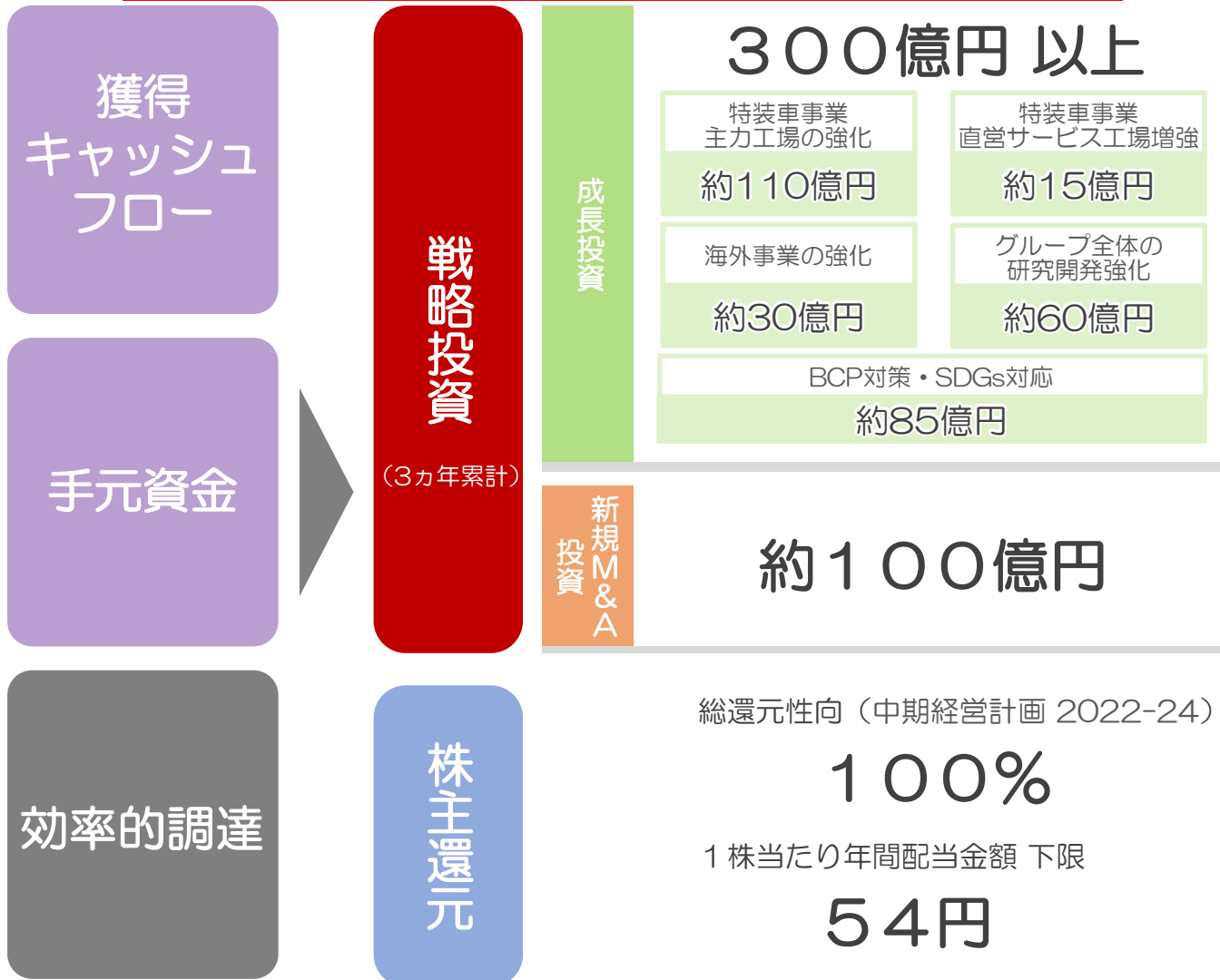
1株当たり年間配当金額 下限

54円

# 中期経営計画（キャッシュ・アロケーション）

◆ 幅広いステークホルダーからの評価と企業価値向上を意識し、キャッシュ・アロケーションの適切な配分を推進

中期経営計画 2022-24 ~Creating The Future As One~

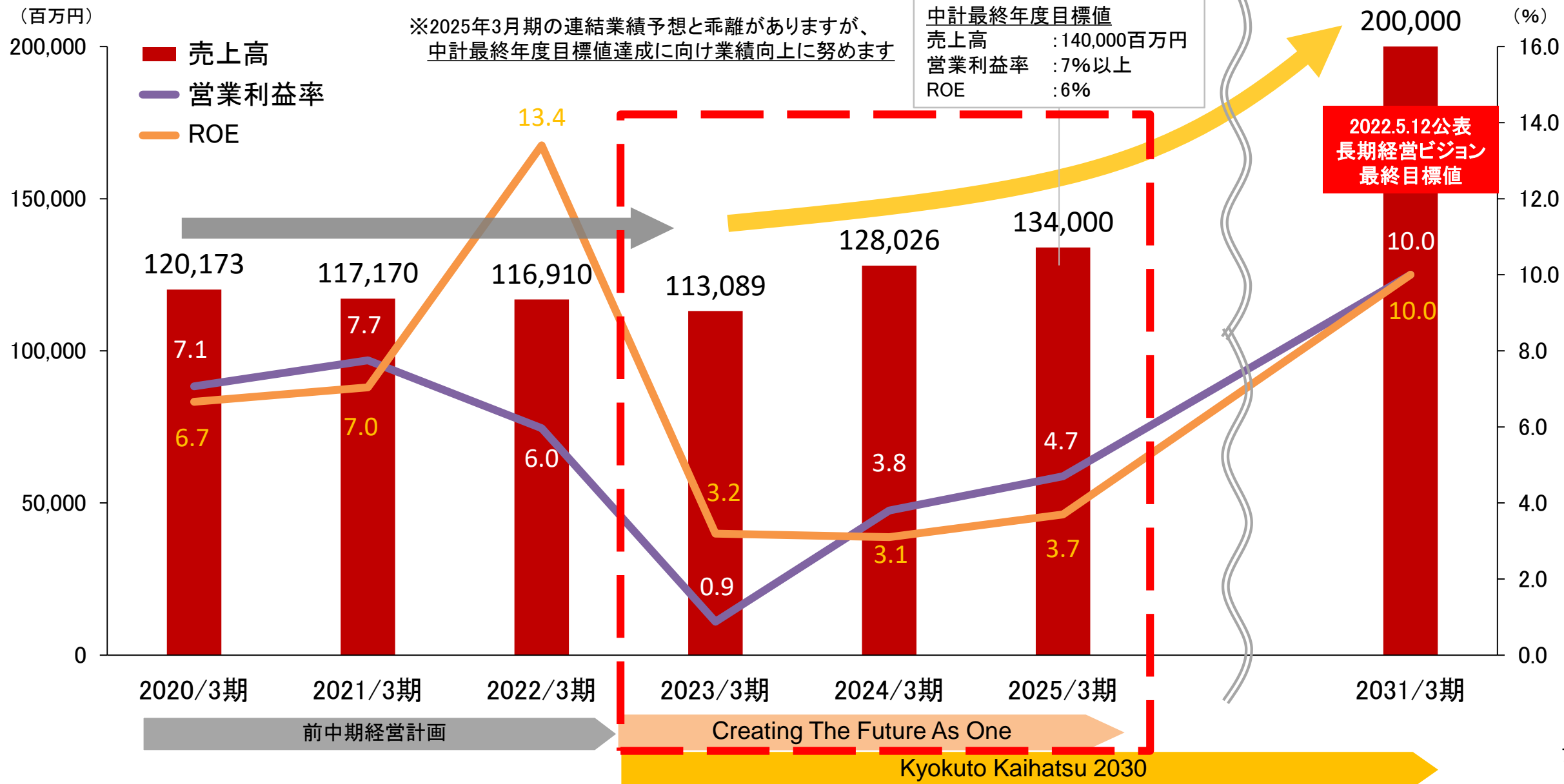


2024年3月期までの累計実績

**232億円**

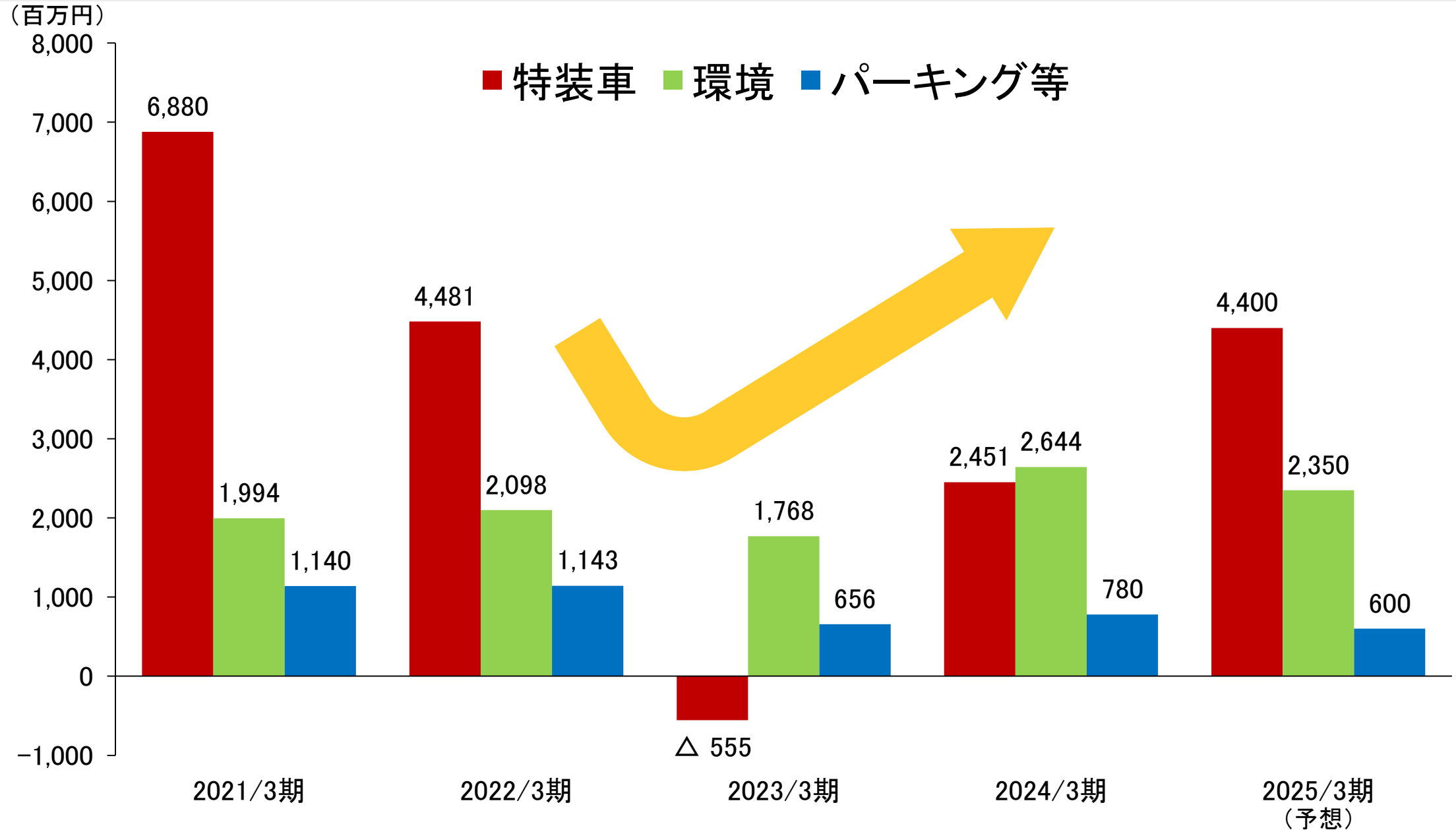
# 中期経営計画の進捗

## 売上高・営業利益率・ROE目標





# 連結営業利益推移（セグメント別）



# 資本コスト等の算定とバランスシート改善

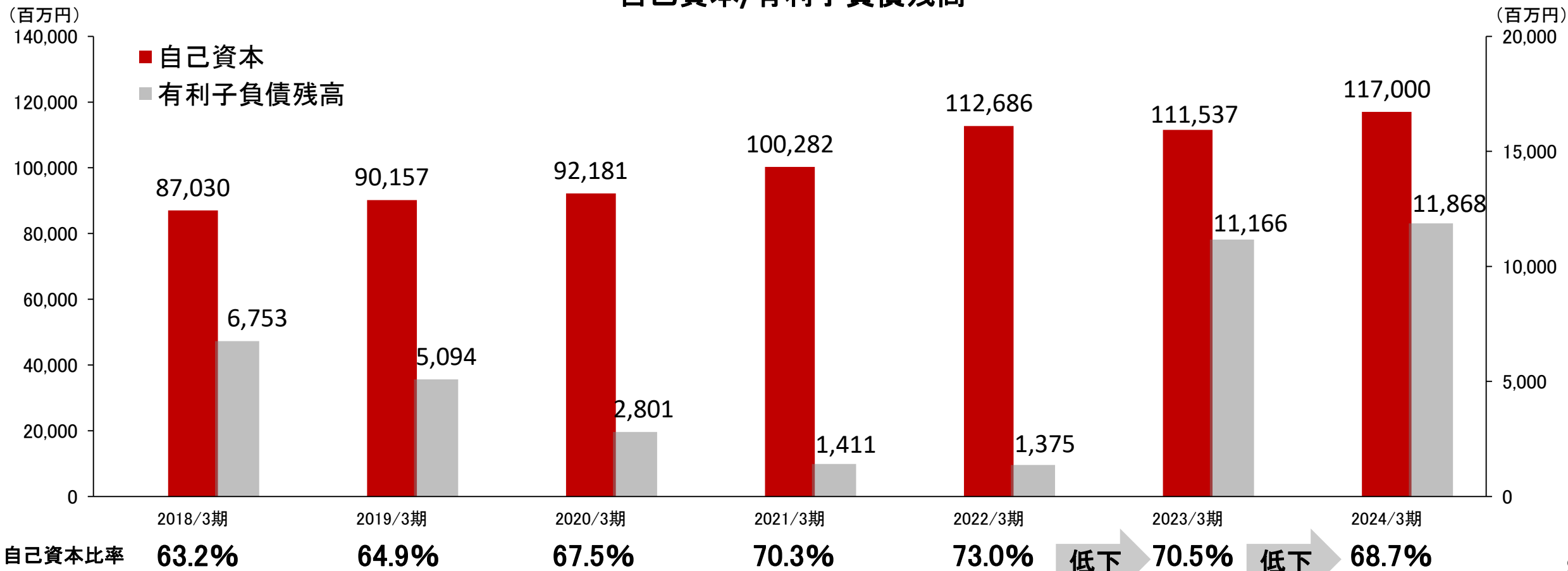
◆ 資本コスト 約7%、WACC 約6% と認識

◆ 有利子負債の活用等により、資本効率を向上、資本コストとWACCの更なる低減を進める

➢ 2024/3月期末の自己資本比率は68.7%(2023/3期末 70.5%)に低下

➡ **株主還元・設備投資を強化し、自己資本の増加を抑制しつつ、資本効率の向上を図る**

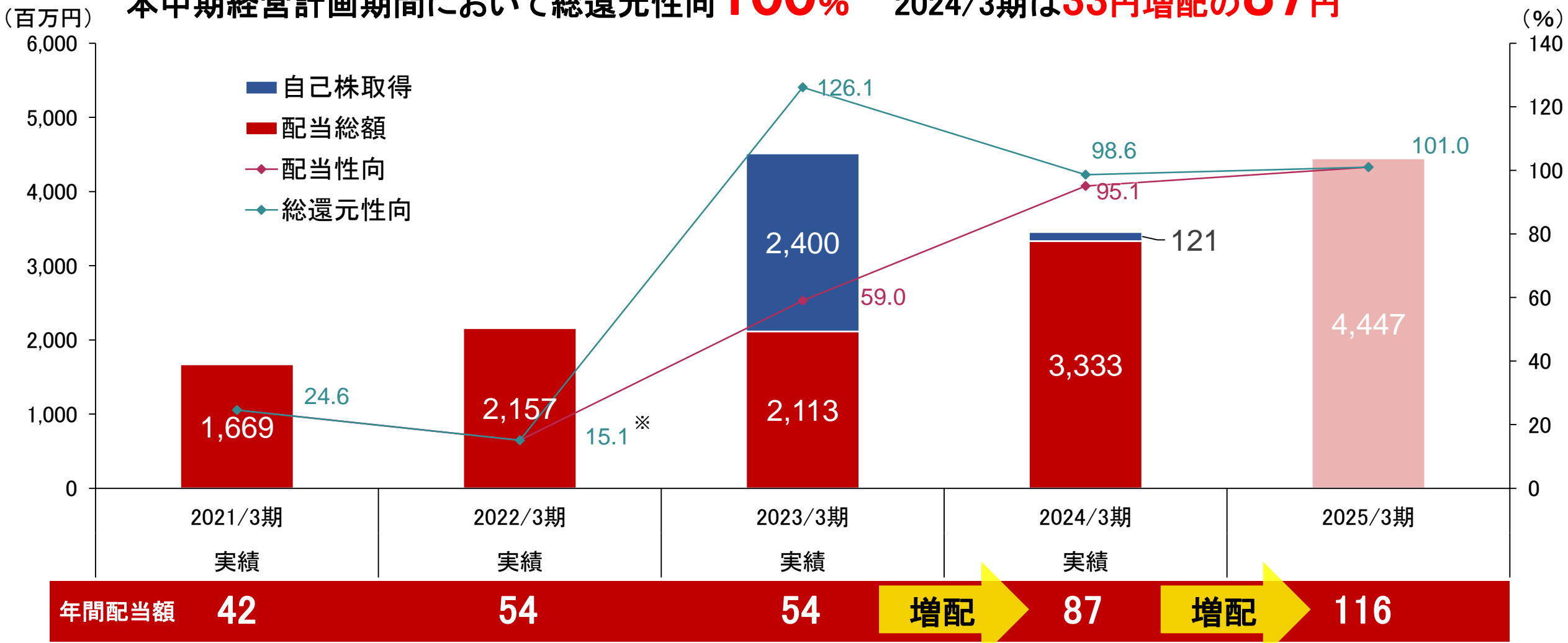
### 自己資本/有利子負債残高



# 株主還元強化

株主還元の方針：年間配当額 1株当たり下限54円 + 機動的な自己株式取得の実施

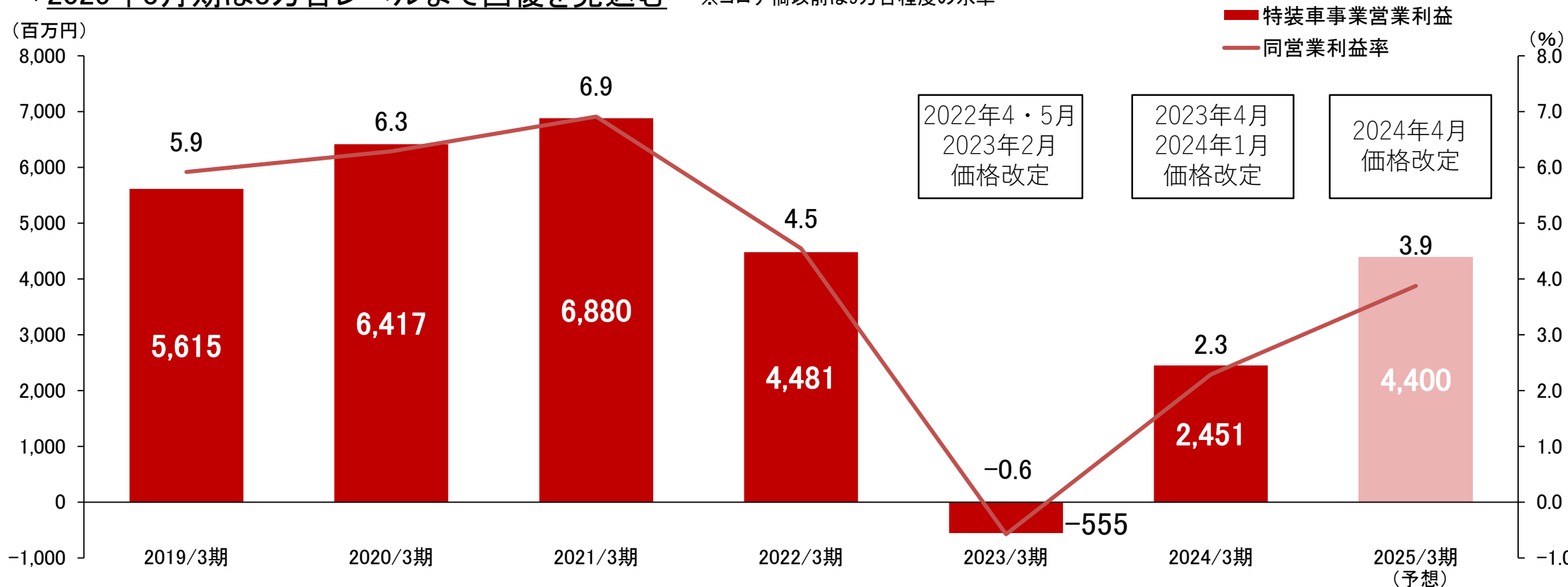
本中期経営計画期間において総還元性向 **100%** 2024/3期は**33円増配の87円**



※ 特別利益(土地売却益)除く: 42.2%

# 特装車事業の収益性向上

- ◆ トラック市場はコロナ・半導体不足・シャシメーカーの認証不正等の影響で一時的に低迷するも、原材料価格高騰に対する製品価格改定と海外事業強化により収益性を改善
- ◆ 半導体不足等によるトラックシャシの供給遅延も徐々に改善しつつある
- ◆ 普トラ台数については、2023年3月期は5.5万台と大きく台数を落としたものの、2024年3月期は実績は6.7万台  
⇒ 2025年3月期は8万台レベルまで回復を見込む ※コロナ禍以前は9万台程度の水準

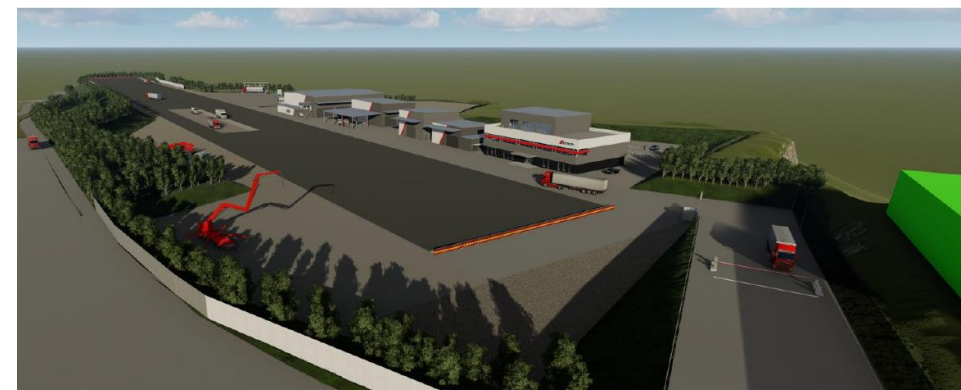
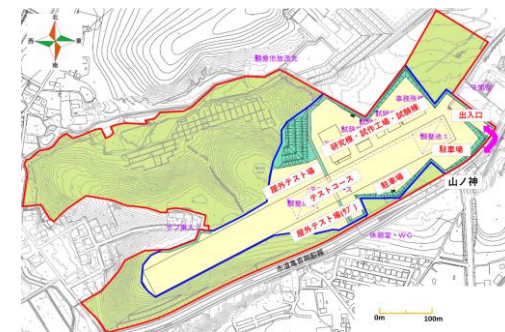


# 主な設備投資・M&A

分野	投資項目	投資内容	実施時期
特装	テクニカルセンターの建設	研究開発体制強化 新製品開発速度 約2倍に向上	2026年度 完成予定
特装	インドSATRAC（サトラック）社 チェーンナイ工場建設	生産能力強化 販路拡大によるシェアアップ	2025年度 完成予定
特装	日本トレクス 新工場建設	生産能力強化 約40%向上	2024年度 完成予定
特装	横浜工場 小型ダンプトラック自動化ライン	生産能力強化 約45%向上	2024年 7月竣工
特装	仙台サービスセンター リニューアルオープン	サービス体制強化	2024年 4月竣工
特装	姫路サービスセンター リニューアルオープン	サービス体制強化	2024年 1月竣工
特装	福岡工場 新工場棟・新事務所 竣工	生産能力強化 約30%向上	2023年 9月竣工
特装	オーストラリア販売代理店 グループ化	豪州及びオセアニア圏への 初拠点	2023年 7月実施
特装	九州特殊モータース グループ化	サービス体制強化	2023年 4月実施

## テクニカルセンターの建設（2026年度完成予定）

- ◆ 新製品開発速度 約2倍に向上
- ◆ 社会的課題に対応する研究開発体制の強化/社会的課題への積極的対応
  - ・ 開発サイクルの短縮
  - ・ 軽量化・カーボンニュートラル
  - ・ 市場ニーズへの迅速な対応
  - ・ lot・AI・EV化への対応力向上
- ◆ 確固たる品質向上への取り組み
  - ・ トレーラの認証試験を行うテストコースの設置
  - ・ 規制への迅速な対応
- ◆ グループ間シナジーの強化



全景鳥瞰イメージ

## 日本トレクス 新工場建設（2024年度完成予定）

- ◆ 重要工程の自動化により生産能力 約40%向上 ※本社敷地内に建設中
- ◆ 生産工程における高所作業を減らし、安全な作業環境を構築
- ◆ より環境に配慮した工場へ

※部品塗装で発生する揮発性有機化合物を年間 約 6.3 t 低減  
※太陽光発電の設置によりCO<sub>2</sub>排出量を年間 約 3.2 t 削減



新工場イメージ

## インドSATRAC社 チェンナイ工場建設（2025年度完成予定）

インドにおける旺盛な特装車需要により、2024年3月期に過去最高の売上となったグループ会社のSATRAC社は、生産能力の強化による受注の取り込みと販路拡大によるシェアアップ及び将来的な製品の輸出展開を目指し、タミル・ナドゥ州チェンナイ市近郊に新工場を建設中

